家庭数

令和３年４月３０日

# 芝山小だより

5月号
清瀬市立芝山小学校
校長　　寺井　俊敬
http://www.kiyose.ed.jp/

## 芝山小学校の鐘

校長　寺井　俊敬

季節はまもなく初夏を迎え、学校のまわりの木々も、緑が濃くなっていくのを感じます。新型コロナウィルス感染症拡大が止まらない、このような状況ではありますが、「今日も1日頑張ろう」と、毎日出勤しています。

新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い、3度目の緊急事態宣言が発出されました。前回同様、学校は休校にはなりませんでしたが、20日（火）にお配りした『清瀬市立学校の宿泊行事の実施について』の通り、宿泊行事が2学期以降に延期となりました。

私は、すでに宿泊行事の準備を進めていた6年生に、感染状況から宿泊行事が2学期以降に延期されたこと、6年担任も皆と日光修学旅行に行きたかったこと、このような状況ではあるけれど、前向きに生活していこう、ということを話しました。とにかく、学校では、今まで以上に感染に気を付けながら、教育活動に取り組んで参ります。

さて、5月6日は、開校記念日です。芝山小学校の歴史を知りたくて、校内を歩いたり、校長室を調べたりしてみました。

まず、私が疑問に思ったのは、「何故、芝山小学校というのだろうか。」ということです。答えは、児童玄関にある『芝山小学校の鐘』にありました。ここには次のように書いてあります。

「昔、この地域は、一帯が雑木林で土地の人は山と呼んでいました。小さな雑木を粗朶（そだ）といい、それを折って薪にしていました。粗朶は柴ともいい、柴がたくさんある雑木林を柴山と呼んでいました。昭和28年4月、雑木林が一面に残っていたこの地に、しばやまという呼び名をとって、清瀬で2校目の芝山小学校が誕生しました。…」

ちなみに、児童玄関にある鐘は、開校当時、時を知らせ、集合を知らせるために使われていた鐘だそうです。

現在、清瀬市立芝山小学校の児童数は、令和3年4月1日現在12クラス333名です。開校当初は、北多摩郡清瀬村立芝山小学校といい、一番児童数が多い時は、29学級（小児療養所学級含）1100人を超える児童がいました。反対に一番児童数が少ない時は、6学級179人の時もありました。

今の校歌は、昭和38年10月に作詞　勝　承夫様、作曲　平井　康三郎様によって完成しました。

校舎2階には、開校当初の頃からの写真が飾られています。どれも、貴重な写真ばかりです。

芝山小学校の歴史を調べるのは始まったばかりです。ところで、何故、『柴山小学校』ではなく、『芝山小学校』だったのでしょうか。歴史を紐解くのはワクワクした気持ちになります。

1年生から6年生の児童のみんなには、開校記念日には、ぜひ、2階にある昔の写真を眺めて、芝山小学校で過ごした先輩たちがどんな学校生活を送っていたのだろうと想像を膨らませてほしいと思います。

冒頭お伝えした通り、新型コロナウィルス感染症に気を付けながらの教育活動になります。学校では、教職員による消毒、児童へマスク着用、手洗いの指導等、できることを徹底して参ります。ご家庭におかれましても、家庭での健康観察、発熱等具合が悪い時は無理をしない、場合によっては早退時のお迎え等、ご協力いただきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。